

|                                    |  |   |
|------------------------------------|--|---|
| 事業名<br>(事業評価実施年度)                  | 世界的研究教育拠点形成のための重点的支援 - 21世紀 COE プログラム -<br>(平成14年度新規・継続事業)(平成15年度新規・継続事業)  |   |
| 主管課及び<br>関係課<br>(課長名)              | 高等教育局大学課大学改革官室(主任大学改革官:小松親次郎)  |   |
| 上位施策目標                             | 施策目標3-1 大学などにおける教育研究機能の充実<br>(関連)施策目標3-2 大学などにおける教育研究基盤の整備   |   |
| 事業の概要                              | <p>- 概要 -<br/>国公立大学を通じて、大学からの申請を受け、学問分野別に第三者評価を行い、主として研究面でポテンシャルの高い研究教育拠点(大学院博士課程レベル)に対し、高度な人材育成機能も加味した、重点支援を行うことにより、世界最高水準の大学づくりを推進する。</p> <p>- 経緯 -<br/>「21世紀 COE プログラム」は、平成13年6月の「大学の構造改革」の一環として、大学に第三者評価による競争原理を導入することで、個性輝く世界最高水準の大学づくりを目指し始められた事業である。</p> <p>〔14年度公募対象分野:【生命科学】【化学、材料科学】【情報、電気、電子】【人文科学】【学際、複合、新領域】<br/>15年度公募対象分野:【医学系】【数学、物理学、地球科学】【機械、土木、建築、その他工学】【社会科学】【学際、複合、新領域】</p> <p>- 事業評価の目的 -<br/>本プログラムは、創設当初より、学問分野を10分野に分類し、平成14年度～平成15年度(2年間)で、当該10分野をカバーすることとしており、平成16年度(3年目)以降の事業の進め方については、これまでの事業の進捗状況等を踏まえ、検討することとしてきた。これらの経緯を踏まえ、2年間の本プログラムの事業の進捗状況や社会的影響等を評価し、3年目以降の本プログラムの進め方について、事業評価を行うものである。</p> <p>なお、国公立大学を通じた評価システムの確立や世界的な研究拠点の形成計画の進捗等、事業全体の事業評価(事後的検証)については、本プログラムの一の研究拠点形成計画を原則5年間としていることから、目標達成時期を平成18年度としているところである。</p> |   |
| 予算総額及び<br>事業開始年度                   | 平成16年度概算要求額:41,746百万円<br>(平成15年度予算額33,383百万円)<br>総額:51,583百万円<br>事業開始年度:平成14年度   |   |
| 得られた効果<br>(波及効果を含む)                | <p>&lt;事業の進捗&gt;<br/>・選定評価については、文部科学省外に「21世紀 COE プログラム委員会」を設置。<br/>・事業の実施に必要な公募要領、審査要項、審査基準等を定め、事業の進め方を決定(当該資料は公開)。<br/>・平成14年度は、50大学113件を採択(申請は、163大学464件)し、採択拠点に対し補助金を交付。<br/>・平成15年度は、現在選定審査中(申請は、225大学611件)。</p> <p>&lt;これまでに得られた成果&gt;<br/>・「大学の構造改革」を進める上で、本プログラムは非常に大きな影響を与えている。具体的には、各大学において、学部・研究科の壁を超え、学長によるマネジメント体制の下、全学的視野に立って戦略的な研究教育体制の構築に取り組む契機となる、国公立大学を通じた大学間の競争的環境の一層の醸成等により、大学全体の活性化に役立っているところ。<br/>・また、採択されなかった拠点(大学)においても、次年度にむけて検討を活発化させるなどの動きが見られるところ。これらは、平成15年度の申請件数の増加に顕著に現れているといえる。</p>   | <p>事前の評価において期待された効果</p> <p>本事業は、第三者評価に基づく競争原理の導入により、世界的な研究教育拠点の形成を目指すものであり、2年間で全学問分野10分野をカバーし、事業期間は原則5年間である。3年目以降の事業の進め方について、2年間の事業の進捗状況等を踏まえ、事業の見直しの検討を行う。</p> |
| 得ようとした<br>効果と得られ<br>た効果との比<br>較・検討 | 第三者評価に基づく競争原理により、世界的な研究教育拠点の形成を目指す本プログラムの導入により、「大学の構造改革」は着実に進んでいるといえる。本プログラムの2年間の事業の進捗についても、確実に施策を実行しており、想定どおりの効果が得られているといえ、3年目以降の事業の進め方について積極的な対応が求められている。  |   |

|                               |   |
|-------------------------------|---|
|                               | <p>また、大学関係者のみならず、マスコミ等社会的評価、海外機関の反応等からも、本プログラムに対する期待が大きいことがうかがえる。</p>   |
| 検証結果                          | <p>想定どおりの効果が得られた</p> <p>3年目以降の事業の進め方については、「大学の構造改革」を一層加速するためにも、これらの施策効果を十分に考慮する必要がある。</p>   |
| 今後の政策への反映方針<br>(継続の適否、改善点を含む) | <p>(政策への反映の基本方針)</p> <p>3年目以降の事業の進め方については、本プログラムの施策効果を踏まえ、これまで採択した研究教育拠点に対し、継続的に予算措置を行うとともに、各大学に改革を更に促し、「大学の構造改革」を一層加速することが必要である。</p> <p>また、本プログラムは、高度な人材育成機能も重要な要素としているものであることに留意する必要がある。</p> <p>(具体的措置)</p> <p>平成16年度(3年目)以降においても、規模の大小を問わず新規公募を行うことが適切であり、そのための必要な予算措置を講じることが必要である。なお、新規応募を行う分野としては、平成14年度に採択した学問分野のうち、平成14年度応募締切以降において、例えば、研究科等の組織の新設・再編、他機関との連携体制の新たな構築や、新たな学術的知見の発見など、新たにおこった情勢の変化により、本プログラムに応募するにたる価値が発生したものについて、応募を実施するなどが考えられるところである。</p> <p>(採択拠点(個別事業)の評価)</p> <p>本プログラムは、事業創設当初より、事業開始2年経過後に、審査・評価等を担当する「21世紀COEプログラム委員会」において中間評価を行うこととしており、世界的な研究教育拠点形成の重点支援の観点からも、評価に関する項目、方法等適切な制度設計を構築することが求められる。</p> |
| 備考                            | <p>関連閣議決定等：別紙参考資料のとおり</p> <p>(参考資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「21世紀COEプログラム」関連閣議決定等</li> <li>・「21世紀COEプログラム」の概要</li> <li>・「21世紀COEプログラム」に関する新聞記事等について</li> </ul>  |

平成16年度要求額 417億円  
 (平成15年度予算額 334億円)

**「21世紀COEプログラム」**  
 - 世界的研究教育拠点の形成のための重点的支援 -

第三者評価による競争原理の導入により、国公立大学を通じ、優れた研究教育拠点に重点支援を行い、世界最高水準の大学づくりを推進する。

**経緯**

- 大学の構造改革の方針(平成13年6月) -
- 国立大学の再編・統合
- 国立大学の法人化
- 第三者評価による競争原理の導入
- 平成14年度より
- 「21世紀COEプログラム」の創設

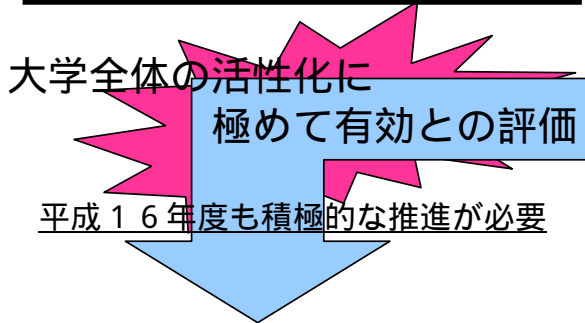
**実績**

・事業の概要

審査: 省外の「21世紀COEプログラム委員会」が公平・公正な第三者評価を実施  
 対象: 各大学の全学的な観点からの拠点形成計画  
 期間: 5年間(2年経過後に、中間評価を実施)

・申請、採択状況

|              |  |                                      |
|--------------|--|--------------------------------------|
| 14年度<br>公募対象 | <b>【生命科学】、【化学、材料科学】、<br/>                 【情報、電気、電子】、【人文科学】、<br/>                 【学際、複合、新領域】</b>          | (実績)<br>・申請163大学464件<br>・採択 50大学113件 |
| 15年度<br>公募対象 | <b>【医学系】、【数学、物理学、地球科学】、<br/>                 【機械、土木、建築、その他工学】、<br/>                 【社会科学】、【学際、複合、新領域】</b> | (実績)<br>・申請225大学611件<br>・採択 56大学133件 |



**平成16年度の計画**

**既採択分の継続 + 平成16年度新規公募を実施**

- 新規公募の必要性 -
- ・「大学改革」の前進 …… 大学全体の活性化、大学教育の質の向上、競争的環境の醸成に極めて有効
- ・急速な研究教育環境の変化への適切な対応
- ・世界をリードする創造的な「人材育成」に寄与
- ・国公立大学を通じた競争的な教育研究予算の充実に寄与